

# 夏越の祓

なごし はらえ  
夏越の祓  
—暑い夏を乗り切る—

六月は、雨に濡れた紫陽花の花が一段と美しさを増す季節でもあります。その反面、じめじめしていて過ごしにくい季節でもあり、健康管理に一番気配りをしなければならぬ時だと認識されてきました。この時期に、岡崎でも岡崎天満宮（中町）、六所神社、能見神明宮、菅生神社、新田白山神社などで、「夏越の祓」といわれている「茅の輪くぐり」が六月三日に行われています。

新田白山神社（康生町）で行われている「茅の輪くぐり」を見てみましょう。茅の輪は、矢作川の茅（葦）で作られます。一般参加者の前に、ネンバン（年番）が、大祓の切り麻を自分の体に振り掛け、先にくぐります。輪くぐりの仕方は、8の字に左へ、右へ、そして左へ回り、正面に進みます。一般参加者は、ネンバン（年番）と同じ方法で8の字を繰り返して、その後、自然石鳥居（「厄除け鳥居」と言い、鳥居部分をくり貫いたもの）を這いぐる動作をします。この鳥居は、家が癒癒にかかった時に、くぐって治したという言い伝えがあるものです。



新田白山神社「茅の輪くぐり」（康生町）

以前の輪くぐりは、唱えごとを言いながら、年齢の数だけ8の字に回ったといえます。そして、厄除け鳥居をくぐった後、矢作川の葦を一本貫いて体を撫でたり、部屋の隅を払ったりして、厄や穢れを落とした後、矢作川に流したといえます。茅には旺盛な生命力があり、神秘的な防災の力があると考えられてきたからです。

みなさんも、輪くぐり体験で、自分の体内に茅の生命力を借りて、暑い夏を乗り切ってみませんか。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也

# よくわかる病気の話

## 胃癌・大腸癌の腹腔鏡手術

癌は決して治らない病気ではなく、早期であればほとんどが完治します。しかし、早期癌では痛みなどの症状がなく、したがって検診などで発見することが重要となります。

近年、手術治療が必要な胃癌や大腸癌に対して腹腔鏡手術が積極的に行われるようになってきています。腹腔鏡手術とは、炭酸ガスで膨らませたお腹に5ミリ12ミリの穴を4〜5個ほど開けて、専用の筒状小型カメラ（腹腔鏡）と専用の細長い手術用具を用いて行う手術方法です。小さな傷口で手術が可能ですので、術後の痛みが少なく、1週間前後で退院出来るなど体の負担が少ない手術です。

腹腔鏡手術ではカメラによって臓器が拡大して見えるため、細かい血管や神経を目で見えるよりも正確にとらえることができます。また、細かく手術を進めるため、開腹手術よりも手術時間が長くなり

ますが、出血量が少ないなどの利点もあります。

ただし、腹腔鏡手術は近年開発された手術方法であり、特有の技術、トレーニングを必要とします。当院では専属のチームが治療に当たっており、腹腔鏡手術の数もここ数年で飛躍的に増加しています。

また最近では、症例により手術適応を進行癌まで拡大しています。腹腔鏡手術に関してお話を聞きたいかたは、かかりつけ医の紹介状をお持ちの上で、是非当院へお越し下さい。また、病院ホームページの診療科（外科）にも診療実績や経過予定表（クリニカルパス）などを掲載していますので参考にしてください。

岡崎市民病院 外科

医師 数崎 紀 充

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。